第23回

APSTJ　CMIC Pharmaceutical Value Creator

# シミック製剤技術アカデミー
# 日本薬剤学会製剤技術伝承講習会

## 経口製剤の製剤設計と製造法

## 前　編

製剤技術の更なる高みを目指し，今回は超高層ビルでの講演会開催となりました．

福田委員長開会挨拶
（スペラファーマ）

1日目司会・中田委員
（大阪大谷大学）

♠第23回となる伝承講習会・前編の今回の会場は，日本一の超高層ビルあべのハルカスの23階にある「大阪大谷大学ハルカスキャンパス」内のレクチャールームにて開催されました．
　同大学の教授である中田委員のご厚意により実現しものですが，“第23回を23階で”という偶然となりました．

前編会場：大阪大谷大学ハルカスキャンパス
日時：2018年6月 7日－ 8日　いずれも
　　7月12日－13日　木・金
後編会場：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

大阪大谷大学 ハルカスキャンパス

## 第1日

講師1・中上先生

講師2・荒井先生

講師3・加藤先生

第1日：6月7日（木）　★司会：中田雄一郎（大阪大谷大学）

1. 固形製剤設計総論　中上博秋（日本ジェネリック）
2. QbDに基づく製剤開発における添加剤の評価と管理　荒井宏明（第一三共）
3. 錠剤の製造における各種造粒法の特徴と選択のポイント　加藤保冨（科研製薬）

第2日：6月8日（金）　★司会：箱守正志（アステラス製薬）

4. 錠剤機の進化　中岡利宏（菊水製作所）
5. 難溶解性薬物のヒト経口吸収性評価システム　山下伸二（摂南大学）
6. 粒子設計と固形製剤設計　竹内洋文（岐阜薬科大学）

《敬称略》

♠12講師・4日間による製剤技術の伝承講習会ですが，1講師2時間の受持ちで，90分の講演と30分のQ&Aが特長です．

## 第2日

第2日目司会
箱守委員
（アステラス製薬）

講師4・中岡先生

講師5・山下先生

講師6・竹内先生

意見交歓会

♠ 前編から5週間を経て，後編の2日間が始まりました．前編の「あべのハルカス」から，「名城大学ナゴヤドーム前キャンパス」へ会場を移しての開催でした．この会場では第19回以来，5回目の伝承講習会開催となりますが，まだ，真新しいキャンパスです．

本伝承講習会は2007年に始まり，今年度12年目に入りましたが，当学会としては年会，製剤・創剤セミナーに次いで3番目に大きな事業に発展し，受講者数は延べ950名にも及び，講師も延べ276名になっております．

## 第3日

第3日目司会
青木委員（エーザイ）

講師7・池田先生

講師8・吉田先生

講師9・砂田先生

第3日：7月12日（木）　★司会：青木　茂（エーザイ）

7. 経口製剤における原薬物性評価　池田幸弘（武田薬品工業）
8. 顧客視点での医薬品包装　吉田匡宏（エーザイ）
9. 口腔内崩壊錠の最近の動向　砂田久一（名城大学）

第4日：7月13日（金）　★司会：米持悦生（星薬科大学）

10. 難水溶性薬物のための経口製剤化技術
川上亘作（物質材料研究機構）
11. 異物・洗浄バリデーション・高活性物質の封じ込め
脇坂盛雄（ミノファーゲン製薬）
12. 50μmクラス医薬品微粒子のコーティング
市川秀喜(神戸学院大学)

《敬称略》

## 第4日

◀ 第4日目司会
米持委員
（星薬科大学）

閉会の挨拶 ▶
福田委員長
（スペラファーマ）

講師10・川上先生

講師11・脇坂先生

講師12・市川先生

♠4日間にわたる密度の濃い講演会が終了し，受講者の皆様，講師・司会の皆様お疲れ様でした．次回は2019年1月，2月に非経口製剤に関する講習会を開催の予定です．

文・グラビア担当：
日本薬剤学会・寺田三郎

### 製剤の達人

当学会では，医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，研鑽に努めて衆目の一致する高い技術を確立した方に「製剤の達人」の称号を授与していますが，2017年度も本伝承講習会の講師の中から10名の方々が33年会においてその称号を授与されました（写真：左）．